

野々市市まちづくり基本条例策定委員会第8回

【日時】 2014年4月21日 19:00～21:00

【場所】 野々市市役所201会議室

【参加者】 (五十音順、敬称略)

委員 12名：池田、亥野、大森、小竹、小松、中村、新美、藤田、村井、谷内、山岸、吉岡
市職員ワーキンググループ 10名：飯山、池上、池多、石田、熊谷、小泉、榊原、古谷、前川、
水野

アドバイザー：神谷浩夫

ファシリテーター：森山奈美

事務局 6名：金場、栗山、中谷、舟崎、北、徳野

【欠席者】 大島、絹川、小堀、林、山崎、有東、宮岸、勝井、水元

1. 開会

栗山：定刻になりましたので、第8回野々市市まちづくり条例策定委員会を始めます。本日は大島さん、絹川さん、小堀さん、林さんの4名が欠席です。谷内さんは遅れると聞いています。全員で22名の出席となります。会場が201会議室に変更になりましたので、日程表を委員の方だけに再度配布させていただきます。配布資料の確認をします。会議日程、議事録2種類、振り返りシート、絹川さんから4月11日と4月18日に届いたFAXのご意見です。今回は、「まちづくりの合い言葉を作ろう」というテーマで進めます。また、お手元のお菓子は前任の多田元課長から皆さんへのお礼として配布しています。

2. 第7回会議の振り返り

森山：ありがとうございます。これこそまさに創造力ですね。多田元課長からの愛を感じました。まずは前回会議の振り返りを行います。前回までに、条例をつくるための材料がそろったので、これから調理していくところです。たまにどのような材料があったか忘れることがあるかもしれないので、まとめた資料を随時振り返りながらすすめていきます。特に前回から参加しているワーキンググループの方は前々回までの議論に参加していないので、事務局にある資料を必要などきに見てみて下さい。今回は、できれば条例に盛り込む項目リストを検討し始めることを目標にすすめていきます。配布した議事録をご覧下さい。前回の会議で決定したことは、これまでの議論で出された意見をもとに条例をつくることと、今回行う予定のまちづくりの合言葉づくりに向けて、大事にしたい言葉を考えてきてほしいということでした。主な意見の部分に書いてあるのが前回の振り返りシートの意見です。全体の意見としては、意見のとりまとめが難しかったという意見、皆の意見が重なるものがあって楽しかったという意見がありました。前回のグループワークでは、「まち

づくりあるある」について意見を出しましたが、複数意見のみを取り上げます。ボランティアや町内会役員などは他人まかせにすることが多いという意見、役割分担やリーダーの発掘と育成が必要だという意見、意欲のある若者をどう広げるかという意見、若いエネルギーを用いる術、周りの人を巻き込む姿勢が必要だという意見、言われれば一緒に参加するという意見がありました。要旨の2ページの今後の会議に向けてという部分にある、前文に野々市らしさを入れたいという意見がありました。決定事項でも良いと思います。野々市らしさをどう入れ込むかはグループを作って検討しても良いと思います。グループワークでは、意見の分類を自発心、連帯感、創造力という3つに分けたのですが、創造力に関する意見が少ないので、創造力のイメージをつかみたいという意見が出ました。

グループワークで行った、「まちづくりあるある」の抽出を表にまとめたものをご覧ください。自発心、連帯感、創造力、仕組み、その他、良いこと、与件という分類にしています。右側の数字は投票数です。一番多かったのが7票で、自発心の分類では、ボランティアの人がたくさんいるがいつも同じ人ばかり、何か協働に関するイベントがあるときに同じようなメンバーが集まる、役員を決める時に同じ人に役職が集中する、自ら行動する人が少ない、このようなことをしたらいいまちができると思っても他の人に言い出せないという意見がありました。表の1番目から5番目の意見は同じような意味の意見です。連帯感に関する課題では、何かをしようとするときに行政も市民もそっちでやってよとなり自分でやろうとしない、若い人が参加するようにというが若い人の話を聞けない老人が多い、「みんな」に自分を含めて考える人が少ないという意見は、自発心につながるような意見でもあります。自分の担当でないときに他の担当に押し付けるという意見と、連帯感に関する課題の上位に入っている意見が似ています。これは、一緒にまちづくりを行う上で、つなげる人がどちらの役割なのか迷い、連帯感が薄れる問題にもつながります。また、ゴミの収集日ではないのにゴミを出す人がいる、何回お願いしてもブルーシートが時間内に出ていないなど、身近な生活での問題が出ていますが、思いやりという視点や、他の人が迷惑するという思いから連帯感に関する課題に分類されているのだと思います。創造力に関する課題で一番票を集めたのは、子供と一緒に遊べる屋内の大型施設がないという意見と、自主防災や地域サロンや防災マップを作るように市から言われるが具体的な作り方を言われないのでどう作ればいいのかわからないという意見です。自分達でクリエイティブに考えればいいのかもかもしれませんが、その部分が足りないということです。市役所で色々な計画の話をするのですが、皆が知っているのか、知ってほしいという意見と、ホームページを皆見ているのか、知るべき情報が載っているのかという意見、各団体の連携が少ないという意見については仕組みと連帯感に関する意見です。福祉大会での相互乗り入れ出席は良いという意見、市の長期計画が各担当分野で共有されていないのではないのかという意見が出ています。その他の意見としては、県外で出身地を聞かれたときに金沢だと言って

しまうという意見がありました。票数が多い意見に関しては、なんとかしたいと思っ
ている人が多く、解決策を見いだしたいことです。

3. グループワーク「まちづくりの合言葉づくり」

森山：今回のグループワークは、パタン・ランゲージという手法です。パタン・ラン
ゲージとは、もともと建物を建てる時に用いられる手法の名前です。私は建築の出身な
のですが、心地の良い空間にはいくつかの共通するパターンがあります。例えば、南側に
窓があってひなたぼっこができる空間があるところは気持ちがいいことが多いとか、建物
の敷地がまちの中で見ると神社などの神聖な場所があると気持ちのいいことが多いなど、
建物のディテールの話からまち全体まで色々なパターンがあります。家を設計するとき
はそのパターンを用いて設計するパタン・ランゲージという手法を編み出したのがアメリ
カの建築家であるクリストファー・アレグザンダーという人です。皆さんの経験の中で、
物事がうまくいくとき、一種のパターンがあると思うことはありませんか。この手法は
色々な場面に応用されていて、神奈川県真鶴町や埼玉県川越市では、まちの景観条例をこ
の手法を用いて作っています。真鶴町では美しいまちのパターンをいくつか作って、美の
条例としています。川越市では4間・4間・4間のルールというものがあり、建物の配置
が4間というパターンに従うことで互いの環境を守ったり、新しい建物を建てる時はで
きるだけパターンを取り入れているそうです。自由度を持ってまちの美しさを保つこと
を合言葉にしていますが、私たちは野々市市のまちづくりのルールを作っているの
で、こういうときにはこうしようという合言葉を作って共有することで、まちづくりの
作法が出来るのではないかという仮説です。まずは前回のグループワークで出した
まちづくりあるあるを元にパターンをたくさん作りたいのです。パターンの書き方は、
まず、どんなときにどんな「あるある」があるかという状況設定をします。この
状況のときに、こうあった方がいいという具体的な解決策を書きます。例えば、
「何か協働に関するイベントがあるときにいつも同じメンバーが集まる」とい
うことに対しては、状況設定は「何か協働に関するイベントがあるとき」、ある
あるは「いつも同じようなメンバーが集まる」です。あるあるの中には、同じ人
ばかりが参加、関心のない人が多すぎる、なぜ同じ人ばかりになってしまうのか
ということも補足してほしいです。以前にまちの課題を挙げて、原因と登場人物と
解決策を出したことをイメージしていただければと思いますが、今回はパターン
として書いて下さい。どういう解決の方法があるかも書いてほしいです。解決策
が実施されると、協働に関するイベントがあるときに多様なメンバーが集ま
ったり、役職を決めるときに進んでやる人が多くなるなどの具体例、理想像を
書いて下さい。例えば、「一人一人がやります」、「よろこんでの精神」な
どのタイトルを付けておけば、皆の合言葉になり、問題が防げるのではない
かということです。いつもは5人でグループワークを行います。

すが、今回は1グループで2手に分かれて2～3人で各2個ずつのことを考えていただきます。A4用紙1枚で1パターン作成して下さい。解決策と具体例は話し合いが必要になると思います。意見が書き上がったら、A、B、C、D各班の意見を順にA1からA2と連番を付けて下さい。

〈各自まちづくりの合言葉をまとめ、各グループで意見の番号付けを行う〉

森山：時間になりました。Aグループからパターン名と概要の発表をして下さい。

A1：「一人が2人に声をかける」。イベントやボランティア活動に同じ人ばかりが参加するという状況なので、参加した人一人につき参加していない2人に声をかけるということです。

A2：「意欲を生かすコーディネーター育成」。まちづくりにおける問題点を改善した方がいいと思っている人がいても、どこに言ってもいいかわからないということを引き出してあげること、引き出す存在が重要だということです。

A3：「広報をもっと読んでもらおう」。広報は最後の冠婚葬祭の部分しか読まれないのですが、半分以上読んでくれるようになれば良いと思います。解決方法として、市民の関心事項を探し、読んでもらえるような記事をつくることです。アンケートとして何が知りたいかを市民に聞くこと、市民の関心は何かを知ることが重要です。

A4：「引退返還宣言」。町内会長を辞めたら町内会に参加しなくなる、自分の担当ではなくなったらまちのことをしなくなる状況に対し、引退してもまちのことを行うということです。

A5：「家の前からはじめるきれいなまちづくり」。ごみが落ちていたり、大量のごみが無断で放置されている状況を改善するには、まちをきれいにする必要があります。まずは家の周りだけでもきれいにして、それがまち全体に広がれば良いということです。

森山：ありがとうございます。次はBグループの発表をお願いします。

B1：「自分からやってみよう」。何かをしようとするときに人に任せてしまう傾向が多いので、皆で一緒に食事をして仲良くなり、お互いの顔を知れば良いということです。

B2：「会議の作法」。まちづくりに若い人の参加を呼びかけるとき、若い人の話を聞かない人がいるという状況について、否定をしないで話を聞き、話を聞いた後にはなるほどと納得することで、会議が円滑に進み、次世代のリーダーも生まれるということです。

B3：「声かけ隊」。各種イベントを行うとき、新しい入居者が少ないのは、参加しにくいのが原因という状況なので、声を積極的にかける人を作って誘い出すということです。

B4：「つながり」。パジャマの老人や転んだ子供が困っているときに、どこの人がかわからなくて何もできないという状況をなくすために、まちの人同士で声をかけあったり、皆で美化清掃などを行うことで、お互いに顔見知りになるということです。

B5：「まちも心もきれいに」。ゴミの収集日ではないのにゴミを出す人がいる状況の解決方法として、ゴミの収集日ではない日にゴミを捨てることに対して良心に訴える過激な標語を作ること、まちがきれいになっていくことということです。

森山：ありがとうございます。次はCグループの発表をお願いします。

C1：「屋内大型施設はあります宣言」。野々市市で子供と一緒に遊べる屋内大型施設がないという状況に対して、施設はあっても運営の仕方が甘いので、イベント企画を発信したらいいということです。そのためには定例的に無料で使えるものや、交通手段が用意されたイベントを作り、親子を含めてアンケートを実施し、町会や公民館を超えた交流の場を企画するという事です。

C2：「具体的に言って！」。防災支え合いマップなどの具体的な作り方を市から言われたいという状況は、行政は市民ができると思っているということです。ですから、もう少し歩み寄りをして、具体的に言いやすい環境づくりが必要です。行政と市民でできる範囲を話した上で、まちのこことを行う民生委員などの横のつながりを設ける機会を作ることが可能です。地域の人々の情報は昔に比べて得難くなっており、市から容易に漏らすこともできません。行政から市民に一斉に手紙を送って、情報を出されるのが嫌な人からは返事をもらい、返事のなかった人の情報を流すようにします。行政からは手を差し伸べ、市民からは何が必要かを言ってもらいやすい状況をつくるのが解決になると思います。

C3：「グリーン宣言」。宅地化が進み、緑の確保が必要だという状況に対して、農地を確保する、生垣をつくる、家の庭や空きスペースに鉢植えなどでもいいので置くなどという解決策があります。もともと野々市では田んぼがたくさんあったのが、宅地化が進むことで緑が減っていますが、雨が降って増水することに備えることや、水路や水門などの整備も必要になるという話も出ました。具体例としては、生垣を作った家には補助金を出す、農地が残るように農地の税金を下げる、市街地の水がきれいになるように水路を整備するという事です。

C4：「愛すべき野々市」。県外に出たときに金沢出身だと言ってしまう状況について、野々市があまり知られていないので、野々市を誇りに思ったり、野々市の知名度を上げることが必要です。具体例として、野々市が町から市になったことと、全国住み良さランキング2位であることをアピールします。悪いところに目を留めがちですが、良いところに目を向けていくということです。

C5：「楽しい町内会活動」。町内会活動において、声かけの数で参加者が変動する状況で、やる気のある人を増やすこと、ねばり強い声かけが必要です。楽しい活動をする工夫、声のなかった人が別の人を連れて来るといった具体策が考えられます。

C6：「市内各所でいつもイベント」。野々市には大きな整備された駐車場が多いという特性があり、多くの人が集まることができます。駐車場を使って、農産物などを用いて地産地消とも連携するなどしてアピールします。これをいつもできれば良いということです。

C7：「祭りイベントに学生を」。やる気のある若者がまちのボランティアによく参加しているという状況は、野々市の特色として大学が2つあることに関連します。人材を発掘するため

にも、色々な祭りやイベントに大学生や高校生も巻き込みながら、若者の活動に口出しをせずに自由にやらせる具体策があればと思います。

C8：「自分の声は誰かが聞いてくれる」。まちのために何かをやりたいという気持ちを持った人がいても、声に出せずにそのままになってしまうという状況に対して、声に出せば反応してくれる人が必ずいるのが野々市なので、自分に自信をもって声を出していくことが必要です。また、誰かの声に賛同する気持ちを持つことも大事です。

森山：たくさんの意見ありがとうございます。最後にDグループの発表をお願いします。

D1：「総合計画特集ページ」。市の色々な計画があって話し合いがされていても、市民が知らないことが多かったり、自分に関係のないことは知ろうとしない状況があります。月に1回、広報で総合計画の特集ページを作って、文字ばかりではなくわかりやすく工夫して表現することが必要です。フェイスブックやホームページを見るように工夫することも必要です。フェイスブックページのいいね！ボタンを押すと、自分のページに自然と野々市の情報が流れてくるようになるように工夫することも必要です。以前、椿まつりが開催されたときに、野々市のフェイスブックページのいいね！ボタンを押したらプレゼントがもらえる取り組みをしていました。そういう工夫をすることで、総合計画や市の計画が自然と市民の目に入り、自分にとって関係のあることだという意識を持ってもらおうと、パブリックコメントが増えたり、野々市市民である自覚が高まるのではないかと思います。

D2：「魅るホームページ、魅せるホームページ」。ホームページは皆見ているのか、情報がちゃんと載っているのかという課題がありましたが、ホームページがちゃんと機能していない、情報の質や選定、市民が欲しい情報とのミスマッチはないかという状況です。欲しい情報になかなか行き着かなかったり、全体のページ構成が分かりにくいので、見る側の視点でデザインの部分や、ユーザー別の切り口があれば良いと思います。例えばホームページの主婦向けボタンを押すと、主婦が必要な情報が出て来るなどです。フェイスブック、メルマガ、RSSをもう少し効果的に使うということです。

D3：「より市民のためのまちになる」。予算の偏りがあるとき、様々な問題を解決するために予算執行をしたいという状況に対して、解決策として年度末に予算執行ができるようにするのではなく、お金のやりくりをしてくれるスペシャリストに管理してもらい、問題点があれば、すぐに対応ができるようにしてほしいということです。市民の要望や問題に対して柔軟に対応しながら、大きなことは次の予算で動けると、対応しやすいということです。

D4：「日本一安心して歩けるまち」。高齢者が免許を返納すると、のっティバスの回数券やフリーパスを配るといふことの背景に、高齢者の車線逆走や判断の遅れ、アクセルとブレーキの踏み間違えによる事故が絶えないという状況があります。解決方法は、高齢者への運転講習や免許の返納があります。代替公共交通手段として、のっティバスや石川線、北鉄バスその他が充実すること、バス会社と連携したり、乗り合いタクシーも充実させると、運

転に不安のある高齢者の方が免許の返納しやすくなるのではないかとことです。

D5：「知り合いを増やして助け合おう」。黙っていても助けてくれないが、助けてといえれば助けてくれる、人はそんなに冷たくないという野々市の良さがあります。知らない人は助けにくいけれど、知っている人は助けやすいので、知り合いを増やし、自然に声をかけられる環境づくりが解決になると考えました。具体策としては、知り合いが少ない20代から30代の独身の方向けに野々市っ子OB会を作り、知り合いを増やす環境づくりが必要です。

D6：「車のいないまち」。D4とリンクしますが、野々市は大きくないので、歩いてどこでも行けるといふ一見弱みに見えることを強みに変えることで、究極はエコ化にもつながります。具体的には皆がまちを歩くようになれば、あいさつが活発になり、コミュニティが活発していきます。東西方向に道を作って歩きやすいまちを作ります。

森山：私も2つアイデアを出してみました。一つは「銭湯コミュニティ」です。銭湯や行商やよろず屋、御用聞きなどの地域の情報通の存在、交流の場があると地域の絆が深まると考えました。まちに住む人の状況をお互いに知らないといふ話し合いができないという状況があります。銭湯で地域の人と学生が仲良くなったり、地域の人々の健康状態を御用聞きの人確認できていると、より情報が行き交って、絆が深まると思いました。2つ目は「朝のあいさつ」です。これで26個の合言葉ができました。皆さんコピーライターのセンスがありますね。良いものができてびっくりしています。条文で市民の役割と言われても身構えてしまうので、このようなパターンの形で市民の方々と共有できるといいと思います。この合言葉はより具体的で普段の行動様式を変えることになるので、条例に盛り込むためのいい意見が出たと私自身満足しています。これまでの話し合いや絹川さんの意見から、今後、具体的に考えなければいけないことは、広報やホームページについての意見が出ましたが、まずは情報共有の方法です。次に話し合いの場と決め方です。これは、大きい意味では議会を含む話で、野々市でやろうとしていることとお金の配分をどう決めるかということです。それぞれの地域で困っていることがあり、自分たちで話し合って解決できればいいのですが、解決できない場合にどこに話をして決めるかという作法です。これは条例で方針を決めておきたいことです。もう一つは、一人一人が町内会活動のみならず、まちづくりの場に入っていくときの参加活動のすすめ方にはどういうものがあるかということです。この3つの中で一番重要なのは、話し合いの場と決め方の部分です。例えば、市民の意見が割れたときに、住民投票で決めるかということや条例に盛り込むかどうかということがあります。七尾市はこの部分でものすごく揉めました。これらが今後の議題となると思いますのでじっくり話し合っていきたいと思います。基本の部分は、皆さんに出していただいた合言葉を条文にしていくこととなります。次回は条文に盛り込む項目のリスト検討を行いたいと思います。今日は進んだ感じがしました。

前回、前々回と神谷先生がいらっしゃらなかったもので、アドバイスをいただければと思

います。神谷先生、お願いします。

4. 閉会

神谷：今回の話を聞いて、皆さんが考えていることに感動しました。条例に皆さんの思いをどう盛り込むかという話がありましたが、七尾で条例を作られて、どういう形で効果があったか、どこの部分が有効だったか、実感されたことを聞きたいです。

森山：私は協働の現場にいることが多いのですが、まちづくりに関する情報を公開するという条文ができて、行政が隠していることがあれば条例違反だと指摘できるようになりました。この会議の最初に、条例を作って一番変わるのは行政だという話をしましたが、行政マンに対して、条例を盾にして仕事の仕方を指摘できるようになりました。今週から七尾義塾というまちづくりに関する人材育成の場が立ち上げられます。七尾市の条例の中には、まちづくりに関する人材育成の場をつくることを市民が行っても良いと書いてあり、それに基づいたものです。条例によって、まちづくりに関する活動を始める後ろ盾が出来、ルールに基づいてできるというのが心強いです。今後話し合っていくところは、野々市でやっていくまちづくりの具体的なイメージを膨らませながらすすめていけたらいいと思います。最後に、会長から一言よろしくをお願いします。

藤田：本日もありがとうございます。前回からワーキンググループに入っていたことで、私たちがより一層意見を述べやすくなったのではないかと思います。これを糧に次へすすめたいと思いますので、皆さんよろしくをお願いします。絹川委員から送られてくる意見については、このような意見を皆さんに知ってほしいということで配布しています。絹川委員が一生懸命考えているということも知っておいて欲しいです。本人は元気そうだとお伝えしておきます。ありがとうございました。

森山：一つお知らせがあります。参考図書として、千葉県我孫子市の元市長が書いた「市民自治」という本と、「地域力を高めるこれからの協働」という本を紹介します。また、絹川さんにメッセージがあれば振り返りシートに書いていただければと思います。

栗山：次回の会議は5月7日です。場所は201会議室にて行います。今回は連休明けですが参加をよろしくをお願いします。